



身体障害者診断書・意見書(脳原性運動機能障害用)

氏 名		大正 昭和 平成 令和	年	月	日生 (才)	男・女
住 所	西宮市					
① 障害名 (部位を明記：一上肢の機能障害は左右どちらかを記載)						
② 原因となった 疾病・外傷名						
交通、労災、その他の事故、戦傷、戦災、疾病、 先天性、震災、その他天災、その他 ()						
③ 疾病・外傷発生年月日						
年 月 日 ・場 所						
④ 参考となる経過・現症 (エックス線写真及び検査所見を含む。)						
障害固定又は障害確定						
年 月 日						
⑤ 総合所見						
[将来再認定 要(軽減化・重度化) ・ 不要] [再認定の時期 1年後 ・ 3年後 ・ 5年後]						
※再認定が要の場合は、軽減化か重度化、および再認定の時期について記入をお願いします。						
⑥ その他参考となる合併症状						
上記のとおり診断する。併せて以下の意見を付す。						
令和 年 月 日						
病院又は診療所の名称						
所 在 地						
診療担当科名						
科 医師氏名.....印						
(自筆による署名又は記名押印)						
※身体障害者福祉法第15条第1項に規定する医師						
身体障害者福祉法第15条第3項の意見 (障害程度等級についても参考意見を記入) 障害の程度は、身体障害者福祉法別表に掲げる障害に ・該当する (級) ・該当しない						
		内 訳	等 級			
		両上肢	級			
		右上肢	級			
		左上肢	級			
		移動機能	級			
(注意) 1 「①障害名」には現在起っている障害、例えば両眼視力障害、両耳ろう、右上下肢麻痺、心臓機能障害等を記入し、「②原因となった疾病・外傷名」には緑内障、先天性難聴、脳卒中、僧帽弁膜狭窄等原因となった疾患名を記入してください。 2 障害区分や等級決定のため、西宮市社会福祉審議会から改めて次頁以降の部分についてお問い合わせする場合があります。 3 3歳未満の乳幼児は「肢体不自由用」で診断してください。 4 記入に際しては、消すことができる筆記用具 (消せるボールペン等) は使用しないでください。						

脳原性運動機能障害用（脳血管障害には適用しません）

氏名

1 上肢機能障害用

両上肢機能障害<ひも結びテスト結果>		一上肢機能障害〔5動作の能力テスト結果〕	○可、×不可
1 度目の 1 分間	本	a 封筒をはさみで切るときに固定する	
2 度目の 1 分間	本	b さいふからコインを出す	
3 度目の 1 分間	本	c 傘をさす	
4 度目の 1 分間	本	d 健側の爪を切る	
5 度目の 1 分間	本	e 健側のそで口のボタンをとめる	
計	本		

2 移動機能障害用

下肢・体幹機能評価結果	○可、×不可
a つたい歩きをする	
b 支持なしで立位を保持しその後10m歩行する	
c 椅子から立ち上がり10m歩行し再び椅子に座る _____ 秒	
d 50cm幅の範囲内を直線歩行する	
e 足を開き、しゃがみこんで再び立ち上がる	

（注意）

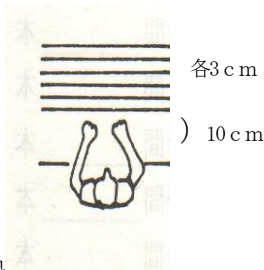
この様式は、脳性麻痺及び乳幼児期に発現した障害によって脳性麻痺と類似の症状を呈する者で、肢体不自由一般の測定方法を用いることが著しく不利な場合に適用する。

（備考）上肢機能テストの具体的方法

ア ひも結びテスト

事務用とじひも（おおむね43cm規格のもの）を使用する。

- ① とじひもを机の上、被験者前方に図のように置き並べる。
- ② 被験者は手前のひもから順にひもの両端をつまんで、軽くひと結びする。



（注）・上肢を体や机に押し付けて固定してはいけない。
・手を机の上に浮かせて結ぶこと。

- ③ 結び目の位置は問わない。
- ④ ひもが落ちたり、位置から外れたときには、検査担当者が戻す。
- ⑤ ひもは、検査担当者が随時補充する。
- ⑥ 連続して5分間行っても、休み時間を置いて5回行ってもよい。

イ 5動作の能力テスト

- a 封筒をはさみで切るときに固定する。
患手で封筒をテーブル上に固定し、健手ではさみを用い封筒を切る。患手を健手で持って封筒の上に乗せてもよい。封筒の切る部分をテーブルの端から出してもよい。はさみはどのようなものを用いてもよい。
- b 財布からコインを出す。
財布を患手で持ち、空中で支え（テーブル面上ではなく）、健手でコインを出す。ジッパーを開けて閉めることを含む。
- c 傘をさす。
開いている傘を空中で支え、10秒間以上まっすぐ支えている。立位でなく、坐位のみでもよい。肩にかついではいけない。
- d 健側の爪を切る。
大きめの爪切り（約10cm）で特別の細工のないものを患手で持って行う。
- e 健側のそで口のボタンをとめる。
のりのきいていないワイシャツを健肢にそでだけ通し、患手でそで口のボタンをかける。女性の被験者の場合も、男性用のワイシャツを用いる。